



となん

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

【学校教育目標】

[知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒

[徳] 豊かな心を持つ生徒

[体] 健康でねばり強い生徒

さきやまようしょう
発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、
学校HPから閲覧可能→



「人生を変えたコント(せいや著)」

霜降り明星せいやさんの本 『人生を変えたコント』を読もう!

成美さん発行の「気まぐれ本紹介だより」に触発され、またまた本を紹介します。

今回紹介する本は、霜降り明星せいやさん著「人生を変えたコント」です。

「将来の夢って何だろう?」「自分は何が好きで、何が得意なんだろう?」中学生の毎日は、勉強や部活、友達関係と、楽しいこともたくさんあるけれど、時にはそんな風に悩んだり、漠然とした不安を感じたりすることもあると思います。そんな中学生のみなさんに、ぜひ手に取ってほしい一冊の本があります。それは、お笑いコンビ「霜降り明星」のせいやさんが書いた「人生を変えたコント」という本。「え、お笑いの人の本?コントの話でしょ?」って思うかもしれませんが、もちろん、せいやさんがこれまでどんなコントに影響を受け、どんな風にコントを作ってきたのか、その熱い思いがたくさん詰まっています。テレビで見るせいやさんの面白いイメージそのままに、文章もユーモラスで、読んでいると思わずクスッと笑ってしまうようなエピソードも満載です。



でも、この本はただ面白いだけじゃないんです。せいやさんが、どんな少年時代を過ごし、どんなことに悩み、そしてどうやって「お笑い」という夢を見つけ、それを追いかけてきたのか……。その道のりは、決して平坦なものじゃなかった。時には自信を失ったり、壁にぶつかったりしながらも、大好きな「コント」と仲間たちに支えられ、一步一步、夢に向かって進んできたせいやさんの姿が、そこには描かれています。

例えば、せいやさんは、自分のコンプレックスや弱さを隠さず、むしろそれを笑いに変える力を持っています。これは、すごく勇気がいることで

すよね。でも、せいやさんの文章を読んでいると、「弱さがあってもいいんだ」「自分らしさを大切にしているんだ」と、なんだか勇気をもらえました。

また、この本の中には、せいやさんが影響を受けた映画や音楽、本の話もたくさん出てきます。それはまるで、せいやさんの頭の中をこっそり覗いているような気分になれるし、新しい世界への扉を開いてくれるかもしれません。みなさんそれぞれの「好き」を見つけるヒントが隠されているかもしれませんね。

「人生を変えたコント」というタイトル通り、せいやさんにとってコントは人生を大きく動かすほどの大きな存在でした。そして、この本を読むことで、みなさんの「人生を変える何か」を見つけるきっかけになるかもしれません。それは、お笑いじゃなくてもいい。スポーツでも、音楽でも、勉強でも、何だっていいのです。何か一つでも、夢中になれるものを見つけること。そして、それに向かって一生懸命になることの素晴らしさを、この本は教えてくれます。読書が苦手だなんて思っている人も大丈夫。せいやさんの言葉は、まるで隣に居て話しかけてくれているように自然で、スラスラ読めてしまうはずです。そして読後には、きっと心が少し軽くなって、明日からまた頑張ろうって思えるエネルギーが湧いてくるはずです(私がそうでした)。

この本は、みなさんがこれからたくさんの壁にぶつかったり、悩んだりした時に、そっと背中を押してくれるような、温かくて力強いメッセージで溢れています。ぜひ、読んでください。そして、自分自身の「人生を変える何か」を探す冒険をスタートさせてみましょう!



☆「図書館」だけでなく「ミニ移動図書館」「ゆめのひかり号」も活用し、読書に親しんでいきましょう。

17 **くらし**

2025年(令和7年) 7月2日 水曜日

伸びやかに 絵本創作励む

子どものように伸びやかに、楽しく。1969年刊行のロングセラー絵本「わたしのワンピース」は、今も多くの読者に愛される作品だ。同作を手がけた絵本作家の西巻茅子さん(86)は、幼い子どもが無心で描く姿や自由な絵に感銘を受け、創作に励んできた。

39年、東京・世田谷で生まれ、終戦前後を栃木、千葉県で過ごす

作家の西巻さん



「幼くても子どもに絵の楽しさは伝わるもの。次のページがめくりたくなるようするにはどう描けばいいかを常に考えていました」と話す西巻茅子さん

した。デザイナーを志し、東京芸術大に進学。しかし「あまり向いていないと気付いた(西巻さん)」。64年に卒業後はフリーランスとして雑誌のレイアウトや、カットを描くアルバイトを続けた。

その傍ら安定した収入を得るために幼稚園の一角で絵を教える「子どものアトリエ」を開いた。「子どものアトリエ」を開いた。慣れない筆を持ち、うれしそうにぐいぐいと絵を描く姿は「見ていられるだけで豊かな気持ちになった」。子どもとの出会いは「生涯を決定づける出来事でした」と振り返る。西巻さんは「子どもが描く心からの絵を見て、自分自身も『絵とは何か』を学びました」と語る。

にしき・かやこ 1939年東京都生まれ。東京芸術大卒業後、リトグラフを学び、絵本作家に。主な作品に「まごちゃんのおたんじょうび」、「ちいさなきいろいかき」など。「えのすきなねこさん」で第18回講談社出版文化賞絵本賞。

無心で描く子の姿に感銘

「子どもたちに負けないように自分も描こう」。既に著名だった長新太さんや田島征三さんの自由な作品にも背中を押され、リトグラフで制作を始めた。

「絵本をつくりませんか」。作品を日本版画協会展に発表するようになった頃、西巻さんの元に出版社からそんな手紙が届いた。自由なテーマで描いてほしいとの依頼を受け、生まれたのが67年のデビュー作「ボタンのくに」(文・なかむらしげおさん)だ。

同作は、母の裁縫道具で遊んだ幼い頃の思い出がベース。初めての絵本づくりは無我夢中だったと



「わたしのワンピース」

いい「たぐさんのリトグラフの板を持って家と製版所を往復するだけで大変だった」。完成後、本を見に書店に立ち寄ったが「恥ずかしくて見られなかった」と明かす。

「わたしのワンピース」は3作目。ウサギが着たワンピースの模様が次々に変わる、不思議でかわいらしい物語。文で展開を説明し過ぎず「絵でお話を語る、新しい絵本をつくりたかった」。周囲の反対を受けたが、自身の考えを貫いた。

刊行から5年ほどたった頃、新聞で「子どもにも人気で、図書館の書棚にいつもない本」と紹介された。記事を見た時、「子どもたちがこの本を見つけてくれました。跳び上がるほどうれしかった」。次第に売れ行きも伸び、代表作といわれるようになった。

良い絵とは何か、半世紀以上考えてきた。「芸術は心の仕事。生まれてきた子どもは、その思いや感情を懸命に伝えようとするから心からの絵が描けるんです」。子どもの豊かな感受性や発信力を信じる気持ちは、今も変わらない。